

科目	都市交通計画学 (Traffic Planning Engineering)		
担当教員	井料 隆雅 非常勤講師		
対象学年等	都市工学科・5年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A4-S1(85%) A4-S4(15%)	JABEE基準1(1)	(d)1,(d)2-a,(d)2-d,(g)
授業の概要と方針	都市交通計画の基礎事項について主に道路交通に着目して学習する。講義の冒頭では、都市交通計画の社会的な意義と、都市交通を構成する各交通機関の特徴を理解する。その後、都市交通計画のうち、特に道路交通計画の分野での主要な方法論である「交通需要分析」「道路交通工学」の2つを学習する。これらの学習内容を基に、受講者自身で都市交通の問題を把握し、それを解決するための方法を提案することにより、学習内容の理解を深める。		
	到達目標	達成度	到達目標毎の評価方法と基準
1	【A4-S1】都市交通計画の社会的な意義を理解できる。		都市交通計画の社会的な意義が理解できているかを中間試験で評価する。
2	【A4-S1】都市交通を構成する各交通機関の特徴を理解できる。		都市交通を構成する各交通機関の特徴が理解できているかを中間試験で評価する。
3	【A4-S1】交通需要分析(交通調査・交通行動モデル・交通ネットワーク分析)の基礎事項について理解できる。		交通調査・交通行動モデル・交通ネットワーク分析の基礎事項が理解できているかを中間試験で評価する。
4	【A4-S1】道路交通工学(道路構造・交通流理論・交通信号)の基礎事項について理解できる。		道路構造・交通流理論・交通信号の基礎事項が理解できているかを定期試験で評価する。
5	【A4-S4】講義で学習した事項を応用し、実際の都市交通問題を解決するための方策を提案できる。		都市交通に関する問題を把握すること、また、その解決方法を講義で学習した方法論を基に提案することができるかどうかを、課題提案型のレポートにより評価する。
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は、試験70% レポート30% として評価する。試験成績は中間試験と定期試験の平均とする。100点満点で60点以上を合格とする。		
テキスト	ノート講義		
参考書	道路交通技術必携2007 交通工学研究会(編集) 建設物価調査会 交通工学 飯田恭敬(監修), 北村隆一(著) オーム社		
関連科目	数理計画学, 交通システム工学		
履修上の注意事項			

